民報 あばしり
NO.1240
10月27日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四二一-四四五八
FAX 四二一-四四五七

9月議会　村椿議員の一般質問

ごみ収集について

問　「高齢者等さわやか収集事業」について伺う。

答　高齢者が自分でごみ出しができない場合にごみ出しと高齢者への声かけをするもので99世帯（H30）が利用している。

問　ごみステーションに置いて行かれる違反ごみに対する対策はどうなっているのか。周知を図ることでどの程度減っているのか。また、今後の取り組み方法について伺う。

答　違反ごみは毎月9千件、違反の内容は全てのごみが混ざっているのが一番多い。アパートには新たにごみステーションの設置を求める。

問　海洋に流れ出しているプラスチックごみがあると思いますが、網走市の場合、海岸町や鱒浦などごみの状況や対策について伺う。実際、魚などの海洋生物に影響が、この網走で起きているのか伺う。

市　毎年、ボランティア活動などで対応している。網走では海洋生物からプラスチックなどは検出されていない。

除雪対策について

問　昨年松浦議員が行ったアンケートでは除雪時に家の前に置いて行かれる重たい雪が高齢者には大変だとのこと。

今の市の除雪車は先端の形を変えられるものであり、雪を山形で押したりブイ型で雪をためたりしながら、家の入り口前に置いていかない除雪はできないか。

答　除雪する時間が朝3時から8時までとなっており、時間がかかることや、雪の堆積場所が確保できないことから無理である。

問　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では「手助けしてほしいことは除雪と回答した割合が高く、手助けできることでも除雪が多い。この点に市が助成していくことが大切だ。町内会への助成を増やす方向で検討してはどうか。

答　町内会助成について周知を図り、多くの市民が利用できるよう取り組んでいきたい。

河川整備、住宅リフォームなど補正予算可決！

網走市議会第2回臨時会が10月18日に開かれ、補正予算案が提案されました。

内容は、①一般会計の住環境改善補助金（住宅リフォーム助成）当初予算1000万円を計上していたが、9月末の段階で151件の申し込みがあり、想定を上回る状況にあるため800万円の追加補正。②空き家等解体事業補助金、当初予算200万円計上していたが、想定を上回るため140万円の追加補正。③河川整備事業として、本年度から2カ年限度で新たに設けられた国の緊急災害防止対策事業債を活用して、7河川の整備を行うため1億450万円の追加補正。総額で1億1390万円の補正予算案でした。

本会議から総務経済委員会に負託され、審査の結果、全会一致で可決され、本会議でも委員長報告の通り全員一致で議決されました。

松浦さとし奮戦メモ！

安倍政権が中東地域へ自衛隊派兵の検討を関係閣僚に指示したとのニュースに驚きました。中東情勢の安定と日本に関係する船舶の安全確保のためとしています。しかし、菅官房長官も「直ちにわが国に関係する船舶の防護を実施する状況にはない」と述べていて、自衛隊派兵の明確な根拠はありません。イランへの軍事的圧力を強め、日本などの同盟国や友好国に役割分担を求めるトランプ米政権への忖度であることは明白です。安倍政権が口にする「中東地域の平和と安定」にも逆行し、軍事緊張を一層高めることはやめるべきです。

菅官房長官は、自衛隊の活動する地理的範囲として、イランとオマーンの間にある「オマーン湾」「アラビア海北部」、イエメンとジブチの間の「バベルマンデブ海峡東側」をあげました。日本の友好国のイランへの「配慮」で、ホルムズ海峡は避けたといいますが、イランがそのような判断をするとは限りません。戦争につながるような行動は避けるべきです。

村ちゃん駆ける

20日、オホーツク勤医協北見病院の25周年記念を祝う会に参加した。

昨年1月に前院長が急逝し、約2年。その間、北海道民医連が20人を超える医師を交代で派遣しながら患者を見てきた。そして、菊地憲孝院長がこの10月に苫小牧から北見へ赴任した。

北見飛竜太鼓の皆さんによる太鼓演奏に始まり、菊地院長のスライドによるあいさつは北見に来た決意も込められてわかり易った。職員でつくる管弦楽団によるユーミンの「やさしさに包まれたなら」の演奏、よさこいソーランの踊りでは参加した職員みんなが会場を取り囲んで踊り、喜びを爆発させていた。

北見病院には、以前私の義父も入院させていただき、大変お世話になった。地域医療を支え、貧富の差別なく患者に寄り添い、憲法を守り平和が一番と取り組んできた病院がこれから益々発展していってほしい。

流氷

昨日の夜は久しぶりに落ち込んでしまった。2つの間違いをしていると思ったら、3つの間違いをしていたからだ。どの間違いも周りの人からの指摘で事なきを得たが、自分がいかに集中力を欠いて任務に当たっていたか思い知らされた。それなのに、今日もまた、この民報の記事の締め切り日を来週と勘違いをしてしまい、村椿さんから催促の電話をもらうはめになった。しかも、彼は昨日、我が家でコーヒーを飲みながら「23日締め切りの民報の記事は、この赤いカボチャの事がいいかもしれませんね！」と言っていたのだ。赤いカボチャは私も村椿さんも福島出身の人に苗をもらい育てたものだ。私のベランダに干してある3個の赤いカボチャを見て、「うちのもなりましたよ！ハロウィンのカボチャと色が似ているけど、おいしいんでしょうかね？」と言うので、以前、新聞赤旗日刊紙に投稿していた人が同じカボチャで、とっても、おいしかったと書いていたよと話したばかりなのに。私の23日はなぜ、明日ではなく、来週に思ったのだろうか。私は今夜も落ち込んでしまいそうだ。

なおこ